

# 環 境 報 告 書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

## 目 次

1. 環境マネジメントシステム
2. 環境方針と組織
3. 環境マネジメントシステムの活動とその内容
4. 2016年度の結果
5. 2017年度の活動について

2017年 7月24日発行

四国ドック株式会社

## 1. 環境マネジメントシステム

2016年11月モロッコのマラケシュで「気候変動枠組条約第22回締約国会議（COP22）」が開かれました。本会議では前回のCOP21で採択・発効された「パリ協定」を具体的にどう動かしていくのかなどのルール作りをスタートさせることが決まりました。

日本の温室効果ガスの削減目標は、2030年度までに2013年度比26%削減としており、先進国の中でも非常に高い目標を掲げています。我が国にとってこの数値を実現するためのルール作りができるかどうか、具体的にどう取り組むのか、地球温暖化対策の大きな転換点を迎えようとしています。

企業の環境改善活動においても掲げた目標を必ず達成するために、ルールや仕組みを改めて見直し成果を上げることが求められます。

環境マネジメントシステムを通し、地域社会への貢献だけでなく世界的な環境保護活動に繋がるよう改善活動を行っていきたいと思います。

## 2. 環境方針と組織

### (1) 環境方針

#### <環境理念>

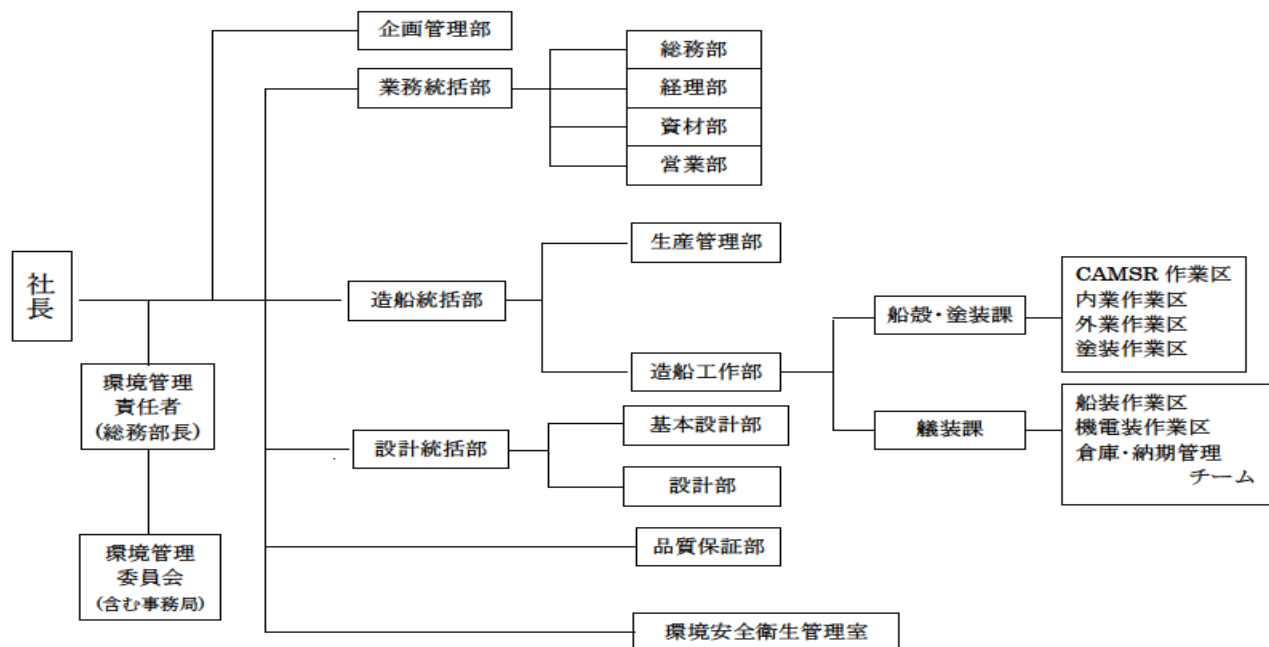
四国ドック株式会社は環境保全の重要性を深く認識し、事業活動を通じて地域との共生、地球環境の維持、向上に貢献する。

#### <環境方針>

1. 事業運営において環境マネジメントシステムを構築し、運用する。
2. 当社の事業活動における環境側面を認識し、以下の環境改善活動を推進する。
  - 1) 環境に配慮した製品及び環境を保全する製品設計を推進する。
  - 2) 環境に配慮した生産及び事業活動を推進する。
  - 3) 継続的改善及び汚染の防止に努める。
3. 関連する法規制及び約束事項等を順守し、周辺地域住民との信頼関係を重視して、健全で快適な環境保全に努める。
4. 環境パフォーマンスの向上のため、目的及び目標を設定し、明確にして継続的改善を推進する。
5. 環境教育や社内広報活動を通して、全従業員及び関係する団体や個人に環境方針を周知徹底し、環境意識の高揚に努める。
6. この環境方針は外部の人々にも公表する。

(2) 組織図 (2017年4月現在)

付図-1 環境対応組織図  
(平成29年4月1日現在)



### 3. 環境マネジメントシステムの活動とその内容

2016年度目標と主な活動内容は下記の通り。

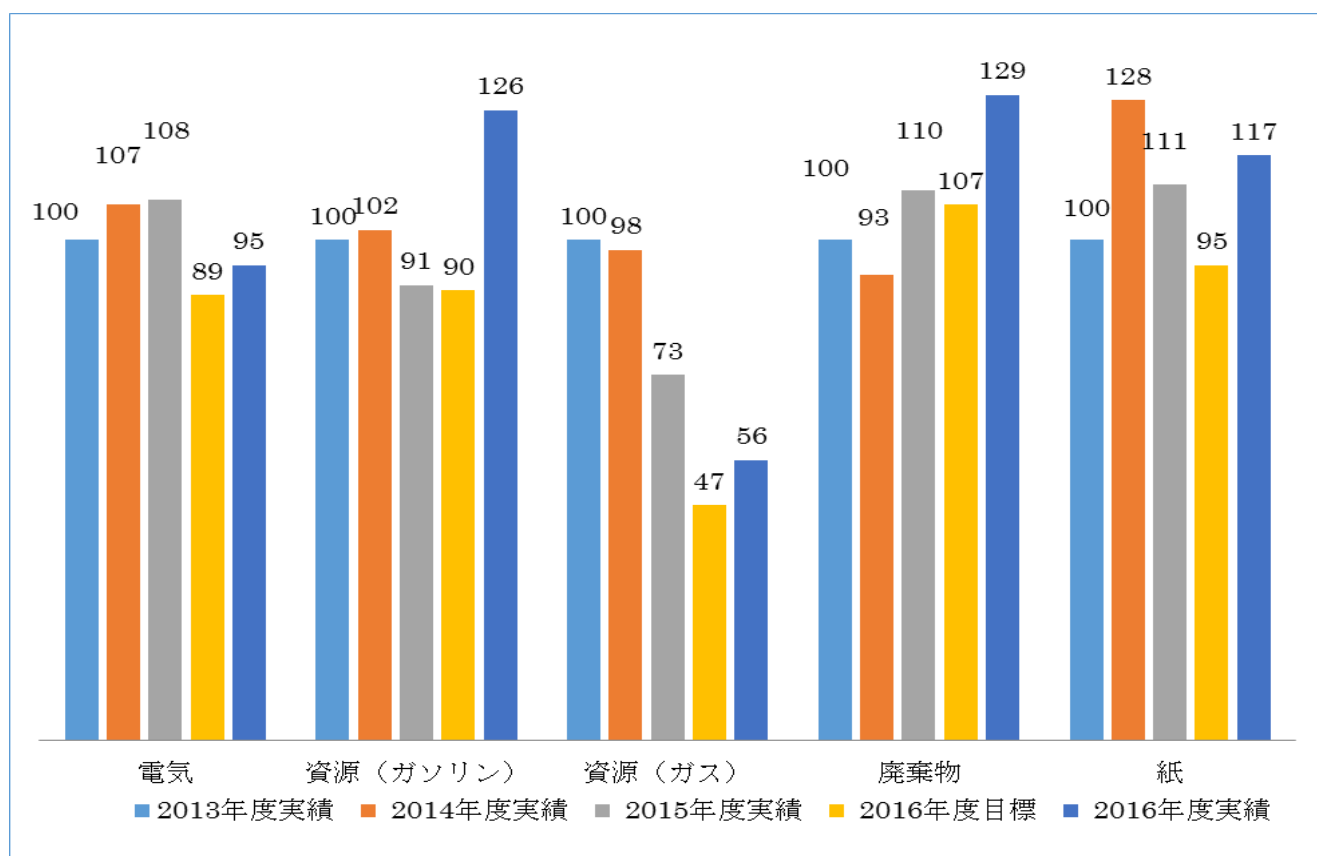
目的	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標
電気使用量の削減 (※変動分/固定分削減率)	7.56kw/hr	8.07kw/hr	8.16 kw/hr	6.76 kw/hr (-5%/-3%)
資源の削減 (ガソリン) (削減率)	3,192 ℓ	3,271 ℓ	2,918 ℓ	2,889 ℓ (-1%) ※前年度比
資源の削減 (ガス) (削減率)	6,680 kg	6,558 kg	4,860 kg	3,162 kg (-1%) 独身寮含まず ※前年度比
廃棄物の削減 (削減率)	1.25 kg/hr	1.16 kg/hr	1.37 kg/hr	1.34kg/hr (-5%)
紙の使用量削減 (削減率)	934,989 枚	1,197,045 枚	1,037,901 枚	888,240 枚 (-5%)

※2016年度の目標値(2014年度~2016年度までの3カ年計画)は2013年度の実績値を基準とし、電気使用量と廃棄物については作業時間及び船種を考慮し設定しています。

## 4. 2016年度の結果

2016年度の結果について、電気・資源（ガス）の2つの削減項目については前年の値より削減できていますが、前記に示す2016年度の数値目標については、すべての項目で目標を達成することができませんでした。各項目の詳細は以下に説明します。

### 2016年度目標値と実績



※2013年度の単位労働時間あたりの実績を基準（100）とする

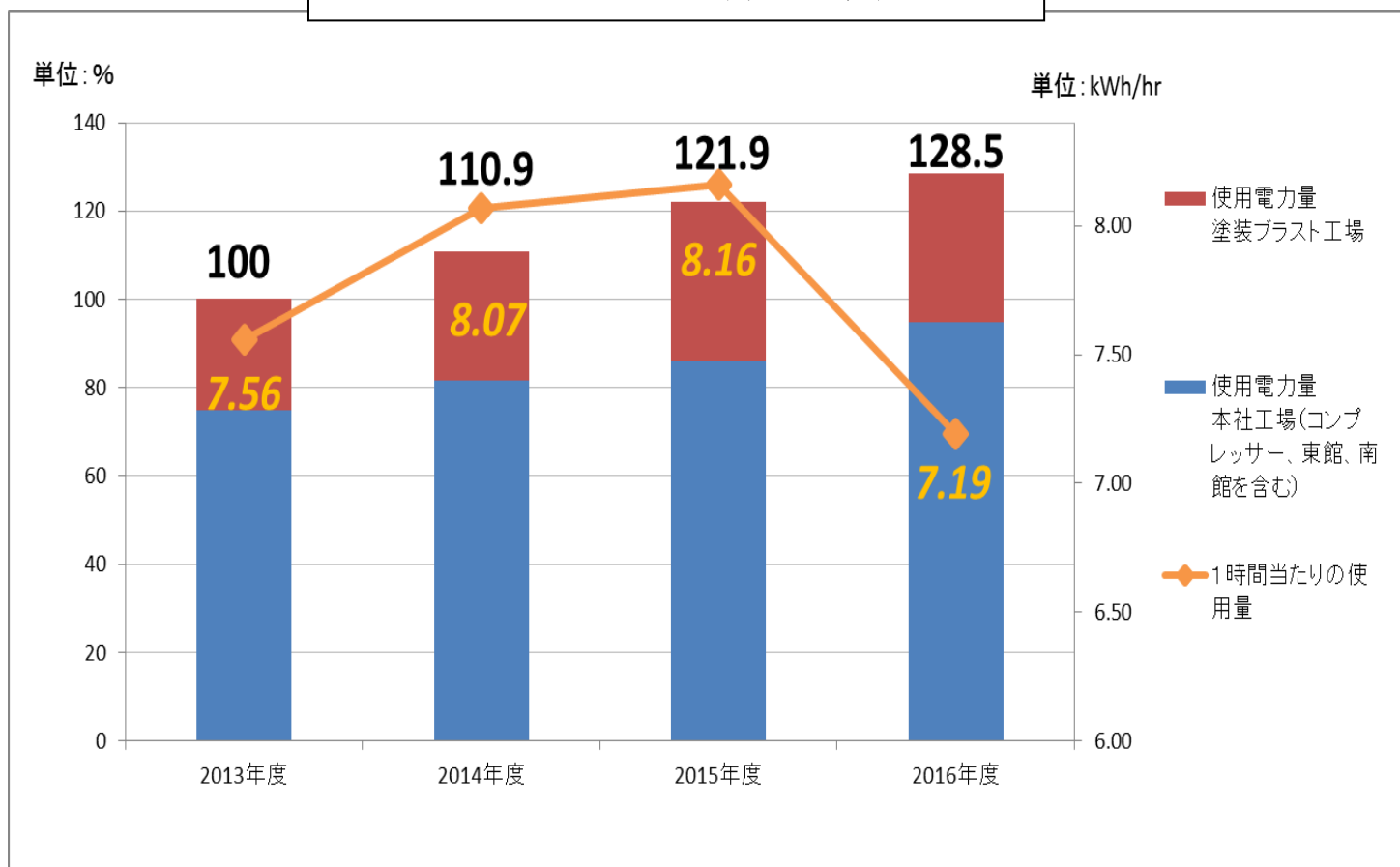
## ① 電気について

電力の使用量(操業1時間当たりの電力使用量)については、2016年度の目標値には6%届きませんでしたが、前年度と比べると約12%減少しており、節電活動への取り組みの成果は上がりました。

目標値は達成できませんでしたが、エアホースの定期点検や残業時における動力ラインの区画別供給など現場レベルでの地道な節電活動の結果が表れたものと考えられます。

ブラスト工場の稼働状況を含め、電力の総使用量は過去3年間で最大でしたが、効率よく設備を使用できた為、3カ年計画で最も良い数値を残すことができました。2017年度は目標を必ず達成できるよう、継続的な改善活動を展開します。

月別電力使用量 (年度比較)



※2013年度の電力の総使用量を100%とする。

目的	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標	2016年度実績
電気使用量の削減	7.56kw/hr	8.07kw/hr	8.16 kw/hr	6.76 kw/hr	7.19 kw/hr

### ③ 資源（ガソリン）について

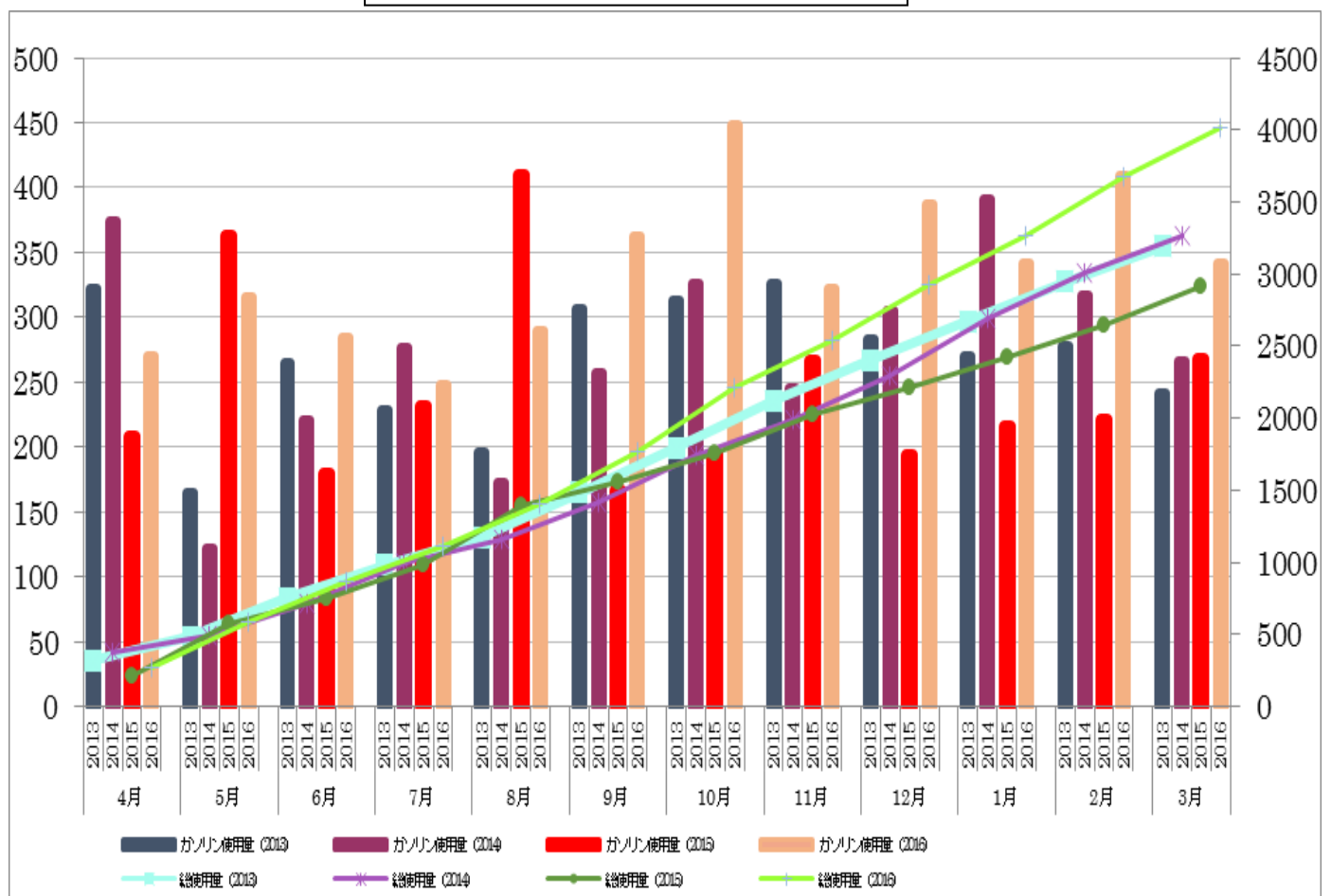
ガソリンの使用については、前年度を大幅に上回る結果となりました。（35%増）自転車利用の促進やアイドリングストップの徹底など積極的に削減活動に取り組みましたが、結果には反映できませんでした。

6年振りの大型プロジェクトである冷凍運搬船建造の円滑な工事進捗を図るため、取引先や客先への訪問が増えたことが原因と考えています。引き続き無駄の無い社用車の使用を徹底しますが、交通費削減等で総合的にコストダウンなどの効果がある使用については、積極的に活用するよう指導します。

単位：リットル

月別ガソリン使用量（年度比較）

（総使用量）  
単位：リットル



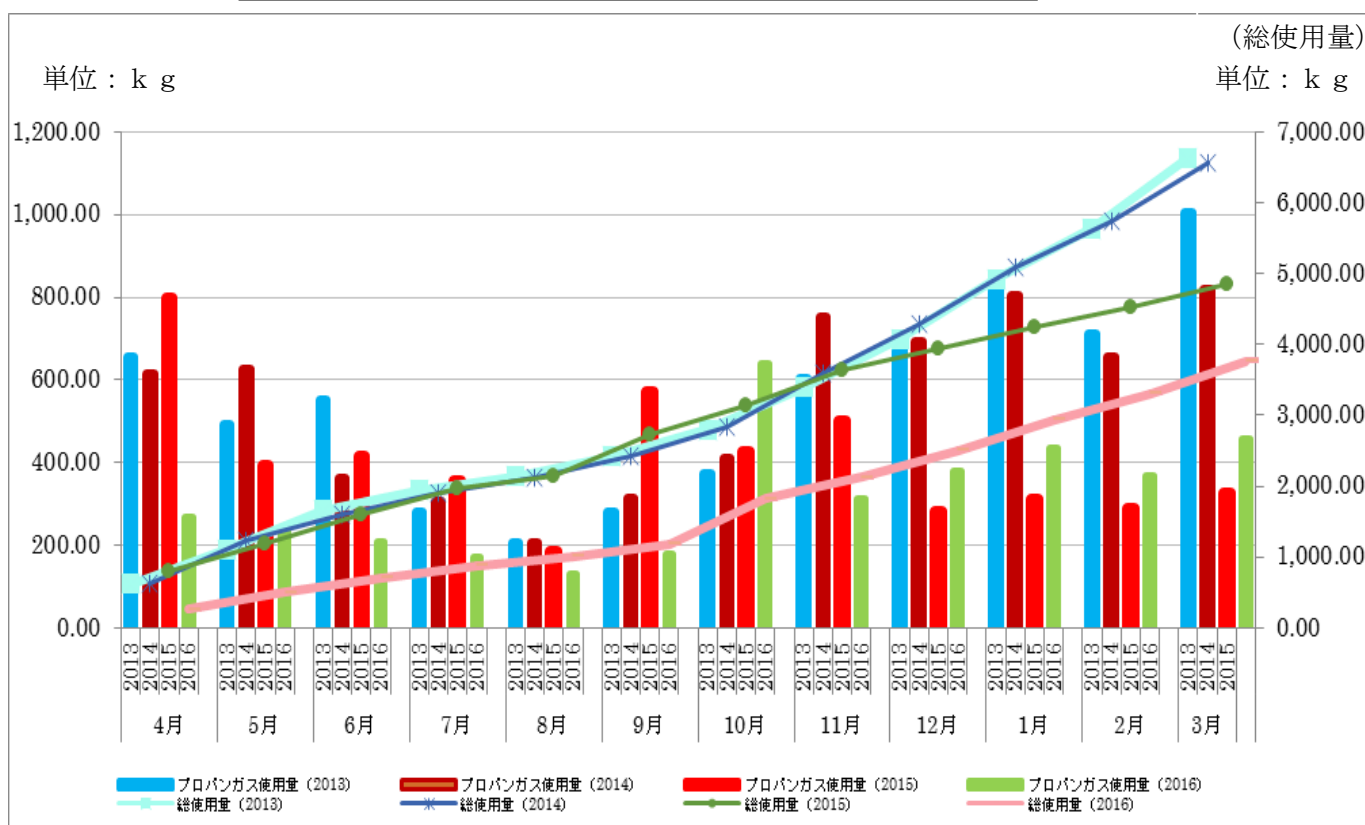
目的	2013 年度実績	2014 年度実績	2015 年度実績	2016 年度目標	2016 年度実績
資源の削減（ガソリン）	3,192 0	3,271 0	2,918 0	2,889 0	4,018 0

#### ④ 資源（プロパンガス）について

プロパンガスは前年度より使用設備が減少した事を考慮した目標値を設定しましたが、達成することができませんでした。しかし、前年度実績と比較すると大幅に減少しており、省エネ機器や節水設備の導入の効果が表れました。

2017年度は新たに設定した目標値を必ず達成するために、毎月の使用量の管理や節約に関する従業員教育などを実施し、プロパンガスの削減に努めます。

月別プロパンガス使用量（年度比較）



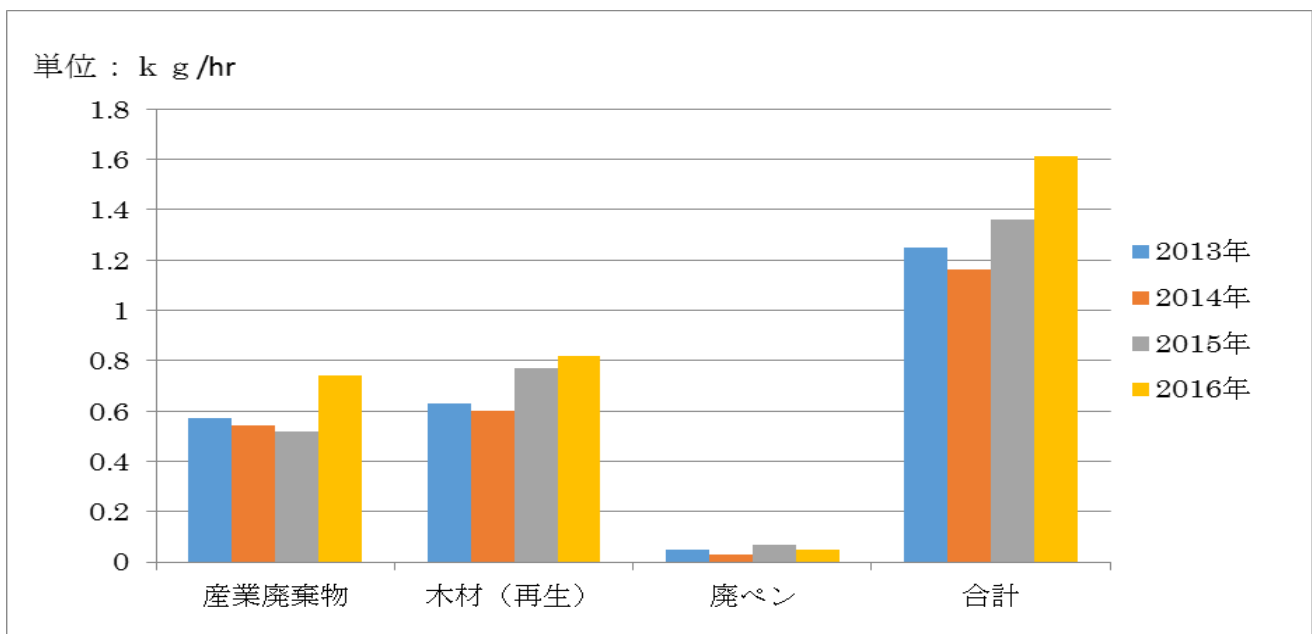
目的	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標	2016年度実績
資源の削減（ガス）	6,680 kg	6,558 kg	4,860 kg	3,162 kg	<b>3,765 kg</b>

## ⑤ 廃棄物について

廃棄物全体の排出物量が前年度と比べて約40%増加し、操業1時間あたりの排出量も約21%増加しています。増加理由としては、船種に起因する廃棄物量の増加（冷凍運搬船建造の防熱工事から発生する廃棄物）が原因と考えられ、当該産業廃棄物が大きく増加しています。その他には、木材等のリサイクル対象物が増加し、一方、廃ペンについては、前年度より25%ほど削減できており、リサイクル効率の向上傾向が見られます。

来年度は必ず目標値に到達できるよう徹底したリサイクル活動を実施したいと思います。

廃棄物処理量（年度比較）



目的	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標	2016年度実績
廃棄物の削減	1.25 kg/hr	1.16 kg/hr	1.37 kg/hr	1.34kg/hr	1.61 kg/hr

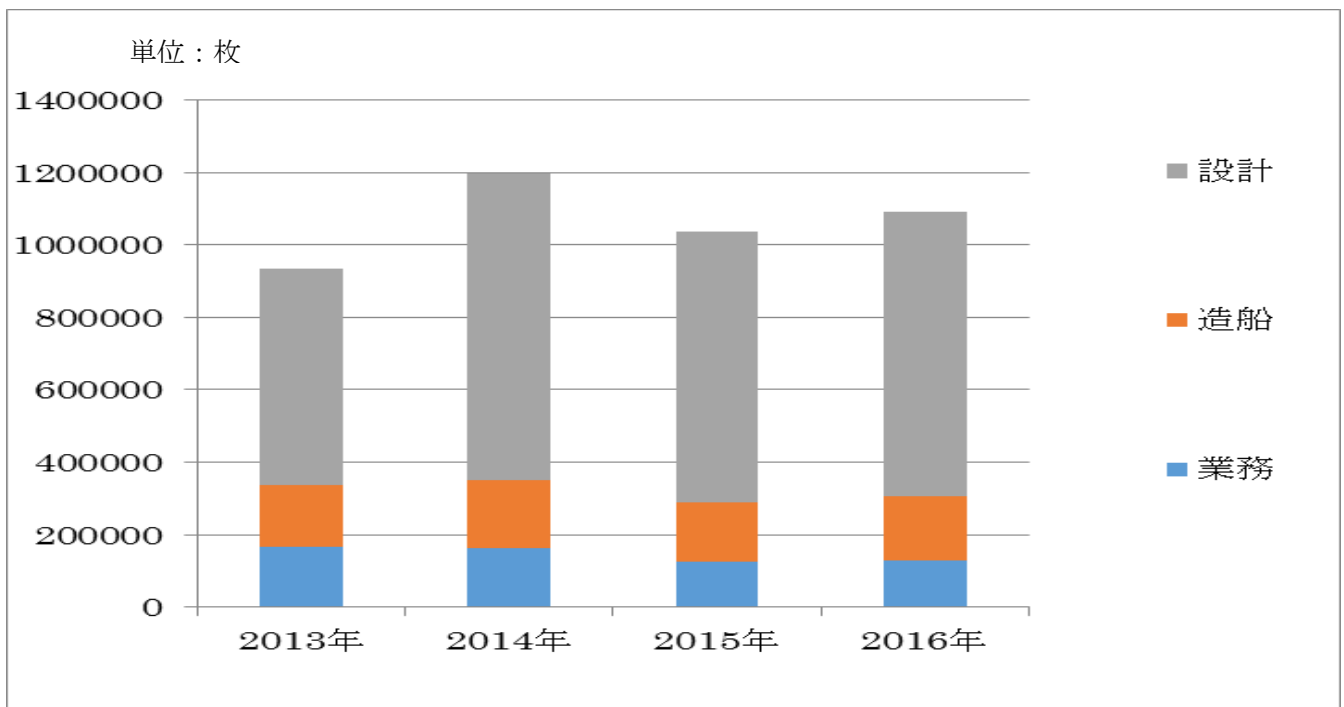


## ⑥ 紙について

紙の総使用量は前年度より約5%増加しました。船種や新設計船などの要因に影響されな  
いよう、会議資料電子化の推進や縮小、集約、両面印刷の徹底など効果的な紙の使用を心が  
けて1年間取り組んできましたが、すべての部門において思うような結果を残すことができ  
ませんでした。

部門間での資料の共有や書類フォーマット見直しによる出力ページ数削減など、新たな活  
動を実施して2017年度には確実に紙の使用量を削減するよう推進します。

部門別紙の使用量（年度比較）



目的	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標	2016年度実績
紙の使用量削減	934,989枚	1,197,045枚	1,037,901枚	888,240枚	1,091,417枚

## 5. その他

### ・ 社外清掃活動の実施

健全で快適な環境保全に努めるため、周辺地域の美化保全活動の一環として、定期的に社外清掃活動を実施しております。



## 6. 2017年度以降の活動について

2014年度よりスタートした3カ年計画は、2016年度末を以って終了しました。

事業運営を取り巻く外的環境の動き、また、建造船の種類や隻数の変化に伴う環境活動への取り組み方針と具体的な活動内容の改変等、様々な要因が影響し、計画していた目標に到達することができませんでした。

2017年度は、ISO14001新規格移行の年でもあります。次年度以降の取り組みの指針となる礎の1年となりますので、新しい目標を掲げ必ず達成できるようEMS・EMPの見直しを適切に行い、新たな発想と工夫を持って取り組む1年にします。

目的	2014年度実績	2015年度実績	2016年度目標	2016年度実績	2017年度目標
電気使用量の削減	8.07kw/hr	8.16 kw/hr	6.76 kw/hr	<b>7.19 kw/hr</b>	8.08 kw/hr
資源の削減 (ガソリン)	3,271 ㍓	2,918 ㍓	2,889 ㍓	<b>4,018 ㍓</b>	3,978 ㍓
資源の削減 (ガス)	6,558 kg	4,860 kg	3,162 kg※	<b>3,765 kg</b>	3,727 kg
廃棄物の削減	1.16 kg/hr	1.37 kg/hr	1.34 kg/hr	<b>1.61 kg/hr</b>	1.59 kg/hr
紙の使用量削減	1,197,045 枚	1,037,901 枚	888,240 枚	<b>1,091,417 枚</b>	1,080,503 枚